

# 株式会社 宮城リスタ大川



## 1 現在の経営内容等

### (1) 経営理念、キャッチフレーズ等

- 稔りの里復活（一度は海と化した大地、これをよみがえらせ豊かな大地にする。Re Start（再開・再出発）は我らの覚悟、我らの使命。）
- 自立と信頼の集団（自立→企業として成り立つこと。めしを食っていけること。信頼→地域からの信頼→利用権の設定拡大継続。生涯、販売する物の品質、価格。志を同じくする仲間や関係機関等との良好な関係。）
- 地域社会と共存共栄（雇用を創出し、直売所等で賑わいの場を作り、農村社会の文化や伝統の継承にも一翼を担いたい。）

### (2) 栽培技術の特長

東日本大震災による津波被災後に復旧した水田で、除塩効果等を確認しながら、水稲作及び備蓄米等稲態様の転作を行っている。また、大規模な鉄骨ハウスで輪ぎくの周年栽培を行っているほか、育苗ハウスを活用した施設野菜の栽培にも取り組んでいる。

### (3) 販売の特長

全量系統出荷をしている。

### (4) 経営組織の特長

- 東日本大震災の津波被災地での営農再開のため、地域において営農意欲の高い担い手農家が設立した法人である。
- 水稲などの土地利用型作物栽培で復旧した農地を守り、耕作放棄地を出さないこと。輪ぎく等の栽培で地域の雇用創出に貢献することを目標に活動

している。

### (5) 労務管理の特長

- 土地利用と花きの各部門における社員の役割分担を明確にして技術の定着に努めている。将来的には、部門間交流を行い全ての生産技術を身につける予定である。
- 株式会社として各種社会保険等に加入している。また、今後も経営規模が拡大することから雇用者の確保等に備えて社会保険労務士の支援を受けている。

### (6) 経営管理の特長

経理は専従の社員が行っている。パソコンによる一元管理を行い、顧問税理士と連携しながら経営管理を行っている。

### (7) その他の特長

- 東日本大震災による津波被災地域における法人として、復旧復興関連事業を活用しながら、農業経営に加え地域社会の再生にも取り組んでいる。
- ほ場整備実施地区として関係機関及び地権者等と調整しながら、できるかぎり集約化した農地による効率的な農業経営に取り組んでいる。

## 2 これまでの経過

### (1) 法人化するまでの特徴的な歩み

東日本大震災の津波により農地、生産施設・機械が甚大な被害を受け、個別担い手による営農再開は難しい状況であった。このことから、地域営農の再興、さらには地域コミュニティの再構築を目指して、地域の担い手有志が立ち上がり発起人会を設立した。その後

## 経営のプロフィール

### 経営概要

- 水稲（63.4ha うち稲態様転作40ha）
- 輪ぎく（83a）
- 施設野菜（ホウレンソウ8a, モロヘイヤ5a）

### 主な施設・機械の保有

- トラクター3台（75, 68, 65ps）
  - 田植機3台（8条）
  - コンバイン3台（6条）
  - 鉄骨ハウス（83a）
  - 育苗ハウス（33a）
- （以上 東日本大震災復興交付金による石巻市からの貸与）

### 構成員等

構成員6名、常時雇用6名、パート年間延べ400名

### 法人設立年月日

平成25年5月23日

### 認定農業者認定年月日

平成25年8月21日

### 資本金

690万円

### 販売額

7,100万円（平成26年度）

### 役員名

代表取締役：大槻 幹夫  
取締役：大槻 一平

### 主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

企業支援型地域雇用創造事業

関係機関等を交えて打合せを重ね、平成25年に水稲の土地利用型作物に輪ぎくの園芸作物を加えて周年活動を行う株式会社を設立した。

### (2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

法人設立後、技術研修等を経て、平成26年から本格的に水稲及び施設ぎくの営農を開始した。

地域の担い手として、ほ場整備地区農地の過半を担う計画であることから、ほ場整備事業の進捗に伴い毎年水稲等の経営面積が拡大している。

## 3 今後に向けて

### (1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

- 現在もほ場整備事業が進捗中であり、平成28年には経営規模が100haを超え、事業完了時には、200ha規模の農業経営となる見込みである。経営規模の拡大に対応するため雇用の拡大を図るとともに、水稲栽培手法の多様化や転作物として大豆等に取り組む計画である。また、地域の安定雇用を図るため、育苗ハウスを活用した野菜等の栽培拡大も検討している。

### (2) 今後に向けての経営戦略

- 現在は地域の農業復興に向け取り組んでいるが、経営規模が安定した後は、より消費動向を踏まえた経営を行いたい。また、生産活動に加え、農産加工や直売所など6次化への取組も検討したい。

（調査：石巻農業改良普及センター）

## 略図



**株式会社 宮城リスタ大川**  
〒986-0115 石巻市福地字大正19-1  
TEL 0225-25-6710  
FAX 0225-25-6820  
E-mail risuta@mediaship.ne.jp

### 視察受入条件

### 要相談

連絡先 石巻農業改良普及センター（P27）